



経営を揺さぶる異常気象

専門家の間では、地球は温暖化ではなく寒冷化に向かっているとするものが多いと聞く。真偽のほどはともかくとして、異常気象が増えていることは否定しようもない▼今年一年のわが畑の周辺の状況を振り返ってみても、六月の大雨で、それまで順調にきていた桃が水分を吸って多くは落果してしまった。九月は曇天が続いて紫色が染まらないままの巨峰が多発。十一月は温かいだけでなく、雨も多く、いつもであれば古民家にスダレのように干し柿が吊るされ、見事な景観を演出するはずが、干し柿生産がままならない、といった具合だ▼山梨で干し柿にされるのは百匁柿(ひやくめがき)というソフトボールほどの大きな渋柿であるが、せつかく吊るしても雨が多いせい、か、ヘタがとれてしまう。そのうえ暖かくて湿気が多いことからカビてしまつて売り物にならない。干し柿農家の中には、自分の農園で生産した百匁柿ではうまく干し柿にならなかったことから、あらためて他所の農園からたくさん百匁柿を購入して干し柿にしたものの、これまたカビて全滅、との話も聞く▼とにかく雨が降るべき時に降らず、降ってほしくない時に降る。しかも降る時の雨量が半端でない。また寒暖の差が大きく、季節はまるきり狂った感じだ。こうした象徴が昨年二月の記録的な大雪である。異常気象が経営を直撃し、足元から経営を揺さぶっている。ここでの果実はTPPの影響は考えにくいとはいえ、農家の表情は一様に冴えない。昨今は顔を見るのもつらいことがすっかり増えてしまった。

(土着菌)